

平成二十三年十二月十六日受領
答弁第一一〇号

内閣衆質一七九第一一〇号

平成二十三年十二月十六日

内閣総理大臣 野田 佳彦

衆議院議長 横路 孝弘 殿

衆議院議員河野太郎君提出スーパーコンピューター「京」のコストに関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員河野太郎君提出スーパーコンピュータ「京」のコストに関する質問に対する答弁書

御指摘の「独自路線」の意味するところが必ずしも明らかではないが、平成十八年に開始された「次世代スーパーコンピュータ・プロジェクト」は、計算科学技術を更に発展させ、広範な分野の研究及び産業における幅広い利用のための基盤を提供することにより、我が国の競争力の強化に資するとともに、多様な分野で社会に貢献する研究成果を挙げることに、並びに我が国において、継続的にスーパーコンピュータを開発していくための技術力を維持及び強化することを目的とし、世界最先端・最高性能の次世代スーパーコンピュータの開発・整備等を行うものであり、その開発・整備については、スーパーコンピュータの開発実績、スーパーコンピュータを多様な研究者の共用に供するための研究環境提供能力等を有する独立行政法人理化研究所を実施主体とし、同研究所が主体的に行うことが適当であると考えたものである。同研究所は、こうした趣旨を踏まえ、次世代スーパーコンピュータの開発・整備については、国内の企業等と共に行うこととし、同研究所及びこの趣旨に賛同した企業等が研究等を実施しているものである。